

## 危険な畦畔に防草シートを施工し、草刈り作業の負担を軽減

- 市の単独事業「畦畔等管理省力化支援事業」を創設し、集落協定で防草シート張りを実施
- 事前の草刈りや防草シート張り作業にかかる日当等に中山間地域等直接支払交付金を活用

### 集落の課題

#### 高齢化と担い手不足

地区の高齢化が進み、担い手不足や事故の危険を抱え、農地の維持管理の継続が課題となっている。



【防草シート張り作業前の畦畔】

### 取組内容

#### 宗像市畦畔等管理省力化支援事業の開始

草刈り作業の負担軽減のため、令和3年度から市独自の取り組みとして「畦畔等管理省力化支援補助事業」を創設し、畦畔等への防草シート張りの資材購入に係る費用を補助

#### 宗像市畦畔等管理省力化支援事業と中山間地域等直接支払制度のかけ合わせ

事前の草刈りや防草シート張り作業にかかる参加者の日当等に、中山間地域等直接支払交付金の共同活動費を活用

### 取組の成果

#### 作業負担の軽減により農業経営に注力

中山間地域等直接支払交付対象13集落のうち5集落が当該市単事業に参加し、合計で約0.16haに防草シートを施工。これにより、草刈り等農地の維持管理の負担が軽減され、本来の農業経営に注力できるようになった。



【畦畔に張られた防草シート】

### 取組地域の概要

○位置



○地域の概要

・福岡市と北九市の中間地点に位置し、四塚連山に囲まれた地域。

○主要作物

・水稻、麦

○集落協定の概要(R3現在)

市内協定数 13集落協定  
面積：約76ha(田)、0ha(畑)  
交付金額：約1089万円  
構成員：農業者120人  
協定開始：平成12年度

## 1 集落の概要

### 集落の農地を地域で守る

——集落の特徴を教えてください

宗像市には、旧玄海町に10集落協定、旧宗像市に3集落協定があり、それぞれ市街地からは車で20分ほどです。四塚連山の麓に位置し斜面が多いこれらの地域では、主に稲作や麦作が行われています。これまで、中山間直接支払交付金を鳥獣害防除や農地の維持管理に活用しながら、地域ぐるみで農地の維持・保全に取り組んできました。

## 2 集落の抱える課題

### 進む高齢化、後継者不足

——集落にはどんなお困りごとがありましたか？

高齢化や後継者不足が進み、斜面の草刈りは危険度が増し、農地の維持管理の継続が困難となってきている点です。同様に、ため池の管理も今後どのように継続していくかが課題となっています。また、中山間交付金を活用し、金網柵や電気柵を設置していますが、山から下りてくるイノシシの被害も課題のひとつです。

### 3 取組の経緯

#### 市の単独事業「畦畔等管理省力化支援事業」の創設

——事業創設の経緯は何ですか？

平成31年に宗像市内で除草作業中の農業者が川に転落する事故が発生しました。足場の悪い場所の除草作業には転落などによる事故の危険が伴うため、以前から中山間地域の畦畔の草刈りの省力化について、地域から相談がありました。そういった声に応える形で本事業を創設しました。

### 4 取組の内容

#### 市の単独事業「畦畔等管理省力化支援事業」に集落協定が参加し、草刈りの負担を軽減

——取組の内容はどのようなものですか？

畦畔等管理省力化支援事業においては、防草シート施工に係る資材費に補助金が交付されます。その事業に今門集落協定が参加しました。防草シート張りの事前の草刈りや防草シート張り作業にかかる参加者の日当等に中山間地域等直接支払交付金の共同活動費を活用することで、各事業を効率的かつ効果的に実施しています。

令和3年度は、今門集落において、耐用年数10年の防草シートを650㎡分施工し、市から資材費の88.69%の補助がありました。

### 5 取組の成果

#### 草刈りの負担が軽減され農業経営に注力、転落事故のリスクも回避

——取組の成果として、具体的にどのような変化がありましたか？

防草シートを施工した畦畔の草刈りの負担が軽減した分、本来の農業経営に注力できるようになっています。また、ここ数年、草刈り作業中の転落事故は発生していません。

### 6 苦労した点、克服方法

#### 防草シート張り作業にかかる人手の呼びかけ

——取組を進めるうえで特にどんなことに苦労しましたか？

防草シートを張ることで、草刈り作業は軽減されますが、防草シート張り作業は人手を要するため、集落協定のメンバーだけでは施工が困難でした。市役所を通じてJAの青壮年部に協力いただき、広範囲の防草シート張りを終えることができました。



【防草シート張りに協力する青壮年部の様子】

### 7 集落の今後、他の地域に伝えたいこと

#### 持続的な取組へ

——今後の課題や目標としてどのようなことを考えていますか？

持続的に農地を守っていくために、担い手の確保は急務だと考えています。草刈り作業や鳥獣害被害等の農業経営にかかる負担やリスクを極力軽減させることで、就農に対するマイナスイメージを払拭し、新規就農者の育成をしていかなければなりません。今回、宗像市単独で畦畔等管理省力化支援事業が創設されたのも、常日頃、地域と行政が情報共有をし、市をあげて農業振興に取り組もうとする動きにつながったためです。今後も、地域と行政が情報共有しながら、農地の保全や農業経営の継続に取り組んでいきたいと考えています。